

令和3年度第1回十日町市総合教育会議 議事録

1. 日 時 令和3年7月26日(月) 午後1時30分～午後2時30分

2. 会 場 十日町市役所 3階 全員協議会室

3. 出席者 市長 関口 芳史
教育長 渡辺 正範
教育委員 庭野 三省
教育委員 浅田 公子
教育委員 廣田 公男
教育委員 渡邊 奈々子

説明者等

子育て教育部長	渡辺 正彦
文化スポーツ部長	金澤 克夫
教育総務課長	富井 陽介
教育総務課長補佐	山岸 正幸
学校教育課長	佐藤 研一郎
学校教育課指導管理主事	細木 久成
学校教育課長補佐	田村 隆
生涯学習課長	樋口 具範
文化財課長	石原 正敏
スポーツ振興課長	庭野 日出貴
文化観光推進室長補佐	栗原 善雄
文化観光推進係長	村山 歩
森の学校「キョロロ」副館長	小海 修
観光交流課長	樋口 正彰
中里支所地域振興課長補佐	山本 勝利

事務局

総務部長	鈴木 政広
企画政策課長	田辺 貴雄
企画政策課企画政策係長	酒井 潤
企画政策課企画政策係主任	高頭 成子

4. 議 題 (1) 地域資源を活用した文化観光の推進
 (2) 不登校・いじめの減少に向けて
 (3) その他

【配布資料】

出席者名簿

座席表

資料1 地域資源を活用した文化観光の推進

資料2 不登校・いじめの減少に向けて

鈴木総務部長（開会）

これより、令和3年度第1回十日町市総合教育会議を開催いたします。私は総務部長の鈴木でございます。よろしくお願いいたします。本会議につきましては、要綱によりまして、公開で行われることとなっております。会議全体の時間は概ね1時間を予定しておりますので、よろしくお願いいたします。

それでは、開会にあたりまして関口市長から挨拶をお願いいたします。

関口市長（開会挨拶）

本日は大変ご多用の中、本年度の第1回総合教育会議を開催させていただき、そしてご出席をいただき、誠にありがとうございました。

教育委員会は、5月18日に渡辺教育長、渡邊奈々子教育委員に御就任いただきまして、新たな体制になりました。今年度、比較的早い段階で第1回目の総合教育会議を開催させていただいたのは、教育委員会の皆様と、当市の教育の方向性を共有し、しっかり進めてまいりたいと思ったからであります。

さて、オリンピックがいよいよ始まり、熱戦が展開されています。当市におきましても、聖火リレーが行われ、市民の服部勇馬さんと樋口政幸さんが出場されるということで、非常に期待が高まっております。このオリンピック・パラリンピックを通じて、子どもたちにはぜひ何か思い出に残るものを見てもらいたいと思います。菅総理がおっしゃっているから言うわけではありませんが、私どもは、日本で開催されるオリンピックの思い出は専一に覚えていますし、特にふるさとの先輩が出場すると、思いは格別なものになると思います。さらに、クロアチア共和国との20年を超える長い付き合いをベースにしたホストタウン、塩ノ又のレスリング道場で特訓してきた女子レスリングチームの活躍など、子どもたちのみならず、市民の皆様が広く関心を持てる話題も満載のオリンピックであります。ぜひ成功例に終わっていただくとともに、ふるさと十日町市に対する子どもたちの一つの思いを作り上げていただきたいと思います。期待しております。

本日の議題は2つ用意してあり、1つ目は、「地域資源を活用した文化観光の推進」であります。御案内のとおり、地域の歴史・文化をしっかり磨き上げて、国内のみならず世界的

な観光資源に育てることができるならば、地域の将来像も違う絵が描けるのではないかという思いがあります。このことは国において、文化観光推進法が施行された際の根底にある思いであり、立法課題においても十日町市のいろいろな事例などは、監督官庁、国会議員の先生方の準備・下地に貢献できたのではないかという思いがございませう。そうした中で、文化観光推進法に基づく計画が認定されておりますし、「究極の雪国とおかまち」と位置付けられたストーリーがもう一つの日本遺産として認定されておりますので、これを追い風といたしまして、国の財政的支援を非常に強く受けることができる立場が確保できました。これらを活用する中で、ポストコロナの時代にリードできる地方都市として、さらなる発展を目指したいという思いがございませう。教育委員会の皆様に御指導いただく中で、これを推進していかなければいけないと思ひます。

2つ目の議題は、「不登校・いじめの減少に向けて」であります。不登校は、いろいろな理由があると思ひます。いじめ問題から発生しているものもたくさんあると思ひますが、こうした問題で苦しんでいる子どもたち、保護者の皆様の気持ちに寄り添った支援が本当に必要だと考えています。子どもたちの悩み、その実態などをしっかりと把握して、今度の対策に繋げていきたいと思ひます。

本日はこの2点について、意見交換をよろしくお願ひいたします。

ふるさとを愛する子どもたちを増やすことは最も重要な施策の一つだと確信しています。さらに、多様な歴史・文化に触れることのできる町をつくっていくという観点で、町の魅力を磨いていくことが、私どもの究極の目標である「選ばれて 住み継がれるまち とおかまち」の実現に必ず繋がるものと考えております。教育委員の皆様には、今後とも引き続き、教育行政の充実にお力添えを賜りますようお願ひ申し上げまして、開会の御挨拶とさせていただきます。1時間という限られた時間ではありますが、よろしくお願ひいたします。

鈴木総務部長

ありがとうございました。当会議の運営につきましては、市長が総合教育会議を招集することとなっていることから、以降の進行につきましては、関口市長からお願ひしたいと思ひます。

関口市長

それでは、ここからは私の方で進行させていただきます。お手元の次第に沿って進めます。議題（1）「地域資源を活用した文化観光の推進」につきまして、事務局から資料の説明をお願ひします。

（議題（1）「地域資源を活用した文化観光の推進」について、栗原文化観光推進室長補佐が資料1に沿って説明を行う。（省略））

関口市長

ただいまの説明について、皆様に御意見をお聞きしたいと思います。いかがでしょうか。

廣田委員

「文化観光」あるいは「日本遺産」という文言は、一般市民にはあまり浸透していないと思いますが、1年後、2年後、3年後に、市民の何割にこの言葉を知ってもらうのかというような数値目標を事務局内部で立てていただいて、それに向けたPRをしていただけないかと思います。ただポスターを貼るくらいだとなかなか浸透しないと思うので、積極的なPRをお願いしたいですし、マスコミの方にも協力をお願いして、露出を多くしていただければと思っています。

関口市長

ありがとうございます。今のお話ですが、2つの大きな事業が国に認められましたが、市民の皆様にはあまり直接は関係がありません。ただ、「日本遺産に認定された」ということは、しっかりアピールする必要があると思っています。織物業界の皆様からは、日本遺産に認定された地域の商品を販売できると大変喜ばれていますし、農業者の皆様にとっても同じようなことが十分あり得ると思います。

車の「雪国魚沼」ナンバーを推進した際、十日町市のみならず、魚沼市、南魚沼市、湯沢町、津南町の若い世代から、「雪国というレッテルを張られるのは嫌だ」、「イメージが悪い」という意見が非常に多く、ナンバーの導入を断念しましたが、それ以来、私は、若い世代における雪国生まれ・雪国育ちの価値を大きく転換するようなことが必要だとずっと思っております。

そのような状況でもありますので、「究極の雪国とおかまち」というストーリーが、日本を世界に発信していく上で必要な、もしくは相応しいストーリーとして、国から日本遺産に認定されたのだということをしっかりアピールしていきたいと思っています。

また、文化観光推進法に基づく認定計画の7億5千万という大きな事業費ですが、国から半分くらい補助金をいただき、投資ができます。国は、当初は、十日町市博物館しか拠点として認めていませんでしたが、度重なる交渉により、当市が今まで培ってきた文化的な拠点（キナーレ、農舞台、森の学校キョロロ、清津峡溪谷歩道トンネル）も認めていただけました。このチャンス・支援を生かして、当市には大地の芸術祭などもあります。特に日本遺産に関連しては雪国文化を有効に活用・充実させて、積極的に発信していきたいと思っています。

渡邊委員

今回これを読ませてもらい、「究極の雪国」というネーミングが素敵だと思いました。私は、8年前にこちらに引っ越してきましたが、雪に親しみがなかったので、生活の中で除雪や雪遊びをすることが非常に新鮮に感じました。「究極の雪国」というタイトルが地元の方に響くかどうかわかりませんが、私自身は非常に素敵に感じました。

一つ行ってほしいことは、日本遺産について、ふるさと教材への掲載など、学校教育における積極的な活用をすると書いてあるが、教材掲載だけではなく、授業の中で、子どもたちが雪国ストーリーに触れられるようなツアーの機会などがあればいいなと思いました。今年の大地の芸術祭は中止になりましたが、バスを学校ごとに貸してもらって、子どもたちは芸術祭の作品を回ることができました。私には小中学校の子どもがいるのですが、2人とも修学旅行や県外へ行くイベントがない中で、市内の芸術作品を見て回ったり、学習したりすることが非常に楽しかったらしく、私にたくさん話してくれました。子どもたちが、実際に現地に行って、日本遺産に認定された究極の雪国のストーリーを体験できる機会をつくれたらいいなと思いました。

渡辺教育長

ありがとうございます。今回、日本遺産の認定を受けた「究極の雪国とおかまち」というのは、外に向けた文化観光の一環という意味で位置づけられた日本遺産でもあります。ただ、この認定を受けるにあたり、もともと根底にあったのは、「雪国」は、市民の中でマイナスのイメージが大きく膨らんでいる面もあるが、プラスの捉え方も相当あり、それをしっかり生かしてきた歴史があるということ、雪国はすごいところだということを市民、特に子どもたちに認知・体験をしてもらいたいということでした。日本遺産はこれだよということではなくて、十日町市全体が日本遺産のストーリーの中に入っているということ、様々な場面で子どもたちに体験・学習をしてもらえるような機会を増やしていきたいと思っていますし、それは十分対応可能だと考えています。

関口市長

他に御意見はありますか。

庭野委員

今ほどの件に関連しますが、私は、去年は十日町高校、今年は十日町総合高校で非常勤講師をしていますが、授業の合間に話をすると、十日町市の生徒だけでなく、南魚沼市、津南町に住んでいる生徒もおりますが、「自分の住んでる地域にはいいところがない」という意識がものすごく強いです。小学校でふるさと教育をやっているはずなのですが、それが中学校、高校へとうまく繋がっていないのかなと感じています。日本遺産をさらに進めていくには、小学生のみならず、中学生、高校生も巻き込んでアピールしていかないと、なかなかうまくいかないのではないかと印象を受けます。親自身も「こんなところ仕方なく住んでいる」と言っているのかもしれませんが、雪というのはすごいメリットをもたらすことをアピールしていかないといけません。電気をつくる、魚沼コシヒカリも雪解け水がないとできないなど、雪のメリットについてはあまり意識されていません。雪が降ることに対しては被害者意識があり、現実には十日町の除雪対策は素晴らしいもので、玄関から少しつづけば通勤もできますが、もう少し雪のメリットをアピールしていく必要が、学校教育全体で若い保護

者向けに必要なのではないかと思います。

私は雪国ナンバーの断念は非常に残念でした。これが今の若者の現実の意識かなと思いました。学校現場でそういう教育しかしてこなかったかなと反省もしましたが、雪は価値があるということについて、これを機にアピールしていく必要があると思います。どういう手段がいいかはわかりませんが、例えば、市報に雪特集をして雪の素晴らしさをアピールするなど1つの手段だと思います。

関口市長

ありがとうございます。他に御意見はありますか。

浅田委員

私も地域における普及啓発が一番大事だと思います。昨年から策定協議会に委員として参加させていただき、その中で商工会議所の西方さんが「市民一人ひとりがトップセールスマンになって十日町をアピールしてもらいたい」とおっしゃっていて、そのとおりだと思います。口コミが大事だなと思いました。7月3日にTBSの「世界ふしぎ発見！」という番組で、十日町がずいぶん取り上げられたのですが、私も県外の友達に宣伝したら見てくれて、「良かったよ」とLINEをもらいました。その友達のお子さんが、将来、自給自足の生活がしたいのだが、松代が候補地の一つになったと言ってくれたのがすごくうれしかったです。先ほどからの繰り返しになりますが、お子さんたちの体験プログラムを充実させていただきたいなと思いました。

関口市長

ありがとうございました。様々な御意見がありましたが、ぜひ教育委員会の皆様には、どのような形で子どもたちにこのことを伝えていけるのかを考えていただきたい思います。日本遺産は雪国のストーリーですが、もう一つの文化観光推進法に基づく認定計画では、十日町市博物館に展開されている里山の縄文の話はもちろん、森の学校キョロロのこの地における生物の多様性の最先端の研究、大地の芸術祭に関係するそれぞれの拠点施設も国によって評価できる施設として認定されましたし、それぞれを関連づけるソフト事業もご支援いただけるという、大変ありがたい5年間の活動のバックボーンを勝ち取ったわけですので、しっかり生かし、少なくとも小学校・中学校の義務教育の範囲内、そして庭野委員からご指摘がありましたけれども、高校生以上の皆様に対するアピールをしっかりやっていく必要があると思います。

今後5年間、当市の社会教育を進めていく上で、今回議論していただいたのは、大事な視点であり、力強いバックアップが約束されたわけですので、このことを子どもたちにしっかりお伝えいただけるように、御努力をお願いしたい。これは私からのお願いであります。

市長部局でもいろんな工夫をしながら、子どもたちにしっかりと伝える努力をしていきたいと思っておりますので、ぜひご理解のほどよろしく願いいたします。

時間の関係もありますので、次に進みたいと思います。議題（２）「不登校・いじめの減少に向けて」であります。事務局から資料の説明をお願いします。

（議題（２）「不登校・いじめの減少に向けて」について、佐藤学校教育課長が資料２に沿って説明を行う。（省略）

関口市長

ありがとうございました。総合教育会議は、大津市におけるいじめ事案に対する教育委員会の対応に対して、様々な意見が出た中で、市長部局もこうした課題に対して踏み込むべきだということで法定されました。また、教育長についても、任期も４年から３年に短縮される、教育委員の皆様との互選から市長の任命によるものとする、市長任期の間に教育長を任命するタイミングを首長に与えるなど、大きな変化がもたらされました。

本日の議題は、私の中で重要な課題だという認識を持っています。市としても、にこやかルームを設置する、教育委員会内部にもこの課題に向かっただけの人材を確保するなどしてきましたが、説明にあったように、いじめの認知件数も不登校の数もいろんな要因がある中で増加しているという状況であるので、私の方からこの課題についてもう一度、教育委員の皆様と議論をさせていただければと思います、議題として取り上げさせていただきました。時間も限られておりますが、皆様からご意見を賜りたいと思います。いかがでしょうか。

渡邊委員

うまく整理してお話できるかわからないのですが、保護者として思ったのは、息子が中学に行くようになってから初めて中学校の中に入ったところ、授業スタイルが、私の時代とほぼ変わっていませんでしたので、正直びっくりしました。今、GIGAスクール構想や新しい教育の形、学校教育の構造転換のようなことがニュースで言われていますが、学校自体はほとんど変わっていないなと衝撃で、びっくりして、それがきっかけで教育委員をやらせていただいたという経緯があります。

どこから手をつければいいのかかわからないぐらいのたくさんの課題が、現場の先生達や学校にあるのではないかと思います。私は、学校システムそのもの自体がすでに崩壊していて、その代償がいじめや不登校の増加につながっているのかなと思っています。先生も忙しく、たくさん子どもたちを抱えて細かく見ることができなく大変ですし、子どもたちも、同じ年齢の同じような子どもたちと同じペースで勉強することがすでにストレスというか、多様性がない、学校の今のシステムのあり方が問題なのかなとずっと思っています。

「じゃあどうすればいいの」という話になると、私も「うーん」となるしかありませんが、何かを変えないと、教育委員会を含め、先生達と協力して、子どもたちの多様性を認めるようなGIGAスクール構想、習熟度別の授業展開、多学年と一緒に勉強するような場、教室だけにとどまらないもっと自由な場、教育環境を十日町市でつくっていったら、子どもをここにおいて勉強してもらって良かったなと思うのではないかと思います。そういう意

味で、教育委員としてまだ入ったばかりで何が何だかよくわからない状態ですが、先生達の気持ちや学校の向かう新しい多様性の方向をバックアップしていけるような、そんな教育委員会、教育委員でありたいと、宣言みたいになりましたけど、私は思っています。

関口市長

ありがとうございました。他にいかがでしょうか。

廣田委員

資料の5ページ「課題解決に向けた取組」の各学校を見ると、非常に先生の負担が過重だなと感じます。一人ひとりが多様性の時代ということで多様化してきていて、一人ひとりへの対応の仕方も異なりますし、全員を見切れないし、勉強を教えるほかにこういったことをするわけですので、非常に大変です。

また、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、医療機関等の連携ともありますが、これには予算がかかるわけですので、国ぐるみでこの問題にもっと取り組んでいただき、予算をつけていただき、教師の負担を減らしながらこういった取組をやっていけるようにしていただけないかなと、市だけではなく、国に対しての要望になるのですが、そのように感じております。

資料の4ページ「いじめの対応」を見ると非常にびっくりしました。もし大人社会でこのようなことがやられていたら、例えば、市役所の職員同士が悪口や脅し文句、叩かれたり、蹴られたり、金品をたかられたり、盗まれたり、壊されたりといったことがやられていたら大変なことになりますし、犯罪行為ですよね。実際には、言葉で表したときほどのことまでになってないかもしれませんが、こういう実態があるということを保護者にも理解していただき、先生が子どもに少し強い言葉を言っても理解していただき、教師と保護者が協力し合って、世の中の風潮が変わっていかないといけないのかなと思っております。

日本では、褒めて育てることが言われていますが、アメリカでは、普段厳しくしているからこそ、たまに褒めることが効果的だと言われています。日本は初めから褒めてばかりいるので、そうするとわがままになるばかりです。また、よく知られた話ですが、アメリカでは、2、3歳になれば子ども部屋に一人で寝かせて、自立を促しているということですが、日本では、小学生くらいまで親と一緒に寝ていて、父親の権威も何もないということです。環境も違うのですが、この際にそういったことも見直していけるような風潮にならないかなと思っております。

関口市長

ありがとうございます。他によろしいですか。

庭野委員

私は、学校現場にいたものですから、こういう数値を見せられると頭が痛いのですが、学

校側の努力で不登校・いじめを減らす方法としては、学校を楽しくすることが大前提です。しかし、現実には、国レベルは学力向上とずっとと言っていて、とにかくテストの点数を上げる方法が求められてきたわけです。そういう中で、学校現場はいろいろ苦勞してきていて、私は、最後の東小学校での実践で実感しているのは、学校行事を多彩にし、みんなが参加できる、交流できる場を持つことが、一番学校を好きになって、結果的に学力も上がるということが数値的にもわかったような気がしました。

このコロナ禍で、人と交流するな、三密になるなという状況ですので、データとしてこういう数値が上がるのは仕方がない。本当は、子ども同士、大人と子供など、いろいろな交流をすると、「学校は楽しいな」と感じることはできるのです。例えば、大地の芸術祭があればそこに連れて行ったり、私が東小学校にいたときは、子どもと一緒にワークショップに参加しましたし、作品会場の節黒城の地層にも連れて行きましたし、作家さんとの交流もありましたし、いろいろな交流をすると、それが「学校は楽しいな」と感じることや人間の信頼関係にも繋がります。今はコロナ禍で、何をやっても厳しいのかなという感じがしますが、アフターコロナ後に、学校で人と人との交流をしなければいけない。子どもは、家庭に関してはバラバラです。いかに学校でいろいろな交流体験をさせるかがポイントで、人と接して良かったなと思うと、子どもも前向きになるのではないかと思います。

今、私は、非常勤講師として高校にいますが、去年の十日町高校、今年の十日町総合高校を見ても、登校しない、欠席日数がものすごい気になる子がいます。小中学校は、いくら欠席しても上に上がっていくが、高校は、出席が足りないいろいろな問題が出てくるので、最終的に辞める生徒もいるようです。人と交流するのが楽しいという体験を学校で保障しなければ厳しいです。親に「やってください」と言っても、孤立している親はそういうことができないし、コミュニケーション能力がある親ならいろいろなところに行って体験することができるが、現実的には厳しいから、学校で、人との交流をし、「人間っていいな」という体験をさせることが大事で、不登校やいじめの対策はそれしかないのかなと考えています。

浅田委員

コロナ禍の状況で、弊害やしわ寄せを受けやすいのがお子さん達だと思いますが、いじめ・不登校の認知件数が上がったのは、必ずしもマイナスと捉えていなくて、認知度が上がってつらいということを周囲に打ち明けられるような状態なのだと受け取っています。

いじめの認知件数の中で、重大事態の認知件数がどれくらいなのか知りたいです。

関口市長

学校教育課長、お願いします。

佐藤学校教育課長

令和2年度は、いじめの重大事態の件数はございませんでした。いじめ防止対策推進法で

は、いじめの重大事態とは、「いじめにより児童等の生命、心身又は財産に重大な被害が生じた疑いがあると認めるとき」また、「いじめにより児童等が相当の期間学校を欠席することを余儀なくされている疑いがあると認めるとき」とされておりますが、それについてはなかったということです。

関口市長

他に御意見はありますか。教育長はいかがですか。

渡辺教育長

ありがとうございました。各委員の皆さんがおっしゃる実生活、実体験に基づくお話で「なるほど」ということ、私も実際そういうふうに使っていたところがありました。

これにつきましては様々なことがあろうかと思いますが、国・県に働きかけることは継続的にやらせていただきたいと思っています。市長とも協力しながらお願いしたいなと思っています。何よりも先生方が多様な対応を迫られている中での事案であります。これをどう解決するかは特効薬がないと言われてはいますが、環境を少しずつ変えていく意識を持っていくことがとても大事なのだろうなと思っています。

いじめの認知件数が上がっていることは、一生懸命見つけていることだと御認識いただきたいと思います。どうして増えるのか、どうして多いのかと思われませんが、低学年はいじめと認識しないまま、おふざけや遊びの延長からエスカレートしてしまう。親は、「その程度ならいじめじゃないでしょう。ふざけ合っただけじゃないですか。」という認識がございます。そういったところをしっかりと保護者から認識していただくことが重要です。

発生したらすぐにいじめた側、いじめられた側それぞれに個別でしっかりと指導するとともに、保護者にもなぜいじめなのか、どうして発生したのか、どうやって防ぐのかをヒアリング、話し合いをし、解決に向けて対応していく状況をとっております。非常に時間はかかりますが、こういったことを地道にやっていくことがいじめの広がりを防ぐ、件数を減らすことに繋がりますし、不登校も同じように現場で対応していますが、引き続き続けていくのが大事なのかなと、今は認識しているところでございます。

関口市長

ありがとうございました。時間にも限りがありますが、せっかくの機会ですので、本日の議題以外のことでも結構ですので、委員の皆様から問題提起したいとか、この点はどうかということがありましたら、御発言をいただきたいと思いますが、いかがですか。

庭野委員

小中学校の不登校に関連して考えていかなければいけないのは、引きこもりです。不登校を乗り越えて立派に活躍している人を何人か知っていますが、不登校を乗り越えて社会人として生きていければ、それで良しです。しかし、不登校の件数より引きこもりの件数をど

のくらい行政でおさえ、どういう対応をしていくか、そういうことこそ真剣に考えなければならぬのかなど、私は思っています。

関口市長

ありがとうございます。まさに義務教育の守備範囲から外れたその先に、福祉の部署との連携が必要だと思うのですが、当市は、ひきこもりに対して議会でも活発に議論いただく中で、非常に先進的に取り組んでいる地域ではないかと、私は思っています。不登校からひきこもりにそのまま繋がってしまうケースも多く見受けられますから、義務教育期間にどのような対応が出来るか、しっかり連携して進めていかなければならないと思っています。大変大きな視点だと思います。

ほかに皆様いかがですか。特にないようでございますので、時間に限りがあつて誠に申し訳ございませんでしたが、こうした議論を公の場でさせていただけるというのは非常にありがたい機会だと思っております。これからも総合教育会議をしっかりと充実したものにしていくように、私も努力してまいりたいと思います。御協力のほど、よろしく願い申し上げます。それでは最後に、教育長から閉会の言葉をお願いします。

渡辺教育長

皆様、大変お疲れ様でした。限られた時間ではございましたが、非常に内容の濃い御議論、御意見、御提案を頂戴いたしました。いろいろな取組が考えられるわけでございますが、具体的に動くことが大事なのだなということを改めて認識した次第でございます。

庭野委員がおっしゃったように、いかに人とコミュニケーションをとっていけるか、これは子どもだけではなく大人も含めてだと思います。いろいろな場所、学校、家庭、地域がそれぞれあるわけですが、十日町市は小中一貫教育とともにコミュニティスクールを積極的に推進しているわけでございます。世代、性別を超えて触れ合う機会をいかに増やしていくかだと思います。そのためには、今回の文化観光・日本遺産が一番大きなツールになるのではないかなどと思っています。大地の芸術祭のお話もありましたが、文化遺産、自然遺産の価値が非常に高い十日町市でございます。雪はほかの地域にもありますが、当市がほかと大きく違うところは豪雪地であるということ、それをマイナスだけではなく、プラスの部分も含めて共に生きる環境にあるということです。コミュニティスクール等を通じて、このことを子どもたちに浸透するような教育をしていかなければいけないなど、改めて思った次第でございます。

今後とも、御意見がございましたらぜひともお寄せいただきまして、市長部局とも連携しながらより良い十日町市になるように努力してまいりたいと思います。今後ともよろしく願いいたします。本日は大変ありがとうございました。

鈴木総務部長

活発な御議論、御意見をありがとうございました。以上で本日の会議を終了いたします。